

秘

昭和十四年三月二十五日



委員長 鈴木（覆）顧問官 **五**

委員 窪田顧問官 **部**

鈴木（六）顧問官 **五**

石塚顧問官 **六** 清水顧問官 **七**

南顧問官 **△** 菅原顧問官 **五**

五

遞信省官制中改正ノ件外二件審査報告

區 密 記

秘

逓信省官制中改正ノ件外二件審査報告

今回御諮詢ノ逓信省官制中改正ノ件電氣廳官制及奏任文官特別任用令中改正ノ件ニ付本官等審査委員ヲ命ゼラレ本月二十三日委員會ヲ開キ當局大臣及關係諸官ノ説明ヲ聽キテ之ガ査覈ヲ遂ゲタリ

電力ノ國家管理ノ制ヲ定メタル電力管理法昭和七年法律第六號及日本發送電株式會社法昭和七年法律第七號ハ既ニ全部施行セラレ昨年五月以降逓信部内ニ電力管理準備局ヲ持設シテ處理セシメタ

ル電力管理ノ準備ニ關スル事務ハ略々完了ノ
域ニ達シタルニ由リ茲ニ電力管理ノ事務ヲ擔
任セシムベキ適切ナル主腦機關ヲ設置スルノ
必要アリ而シテ從前遞信省ノ内局タル電氣局
ニ於テ掌理シタル電氣ノ取締、電氣測定器ノ檢
定及發電水力ニ關スル事務ハ其ノ性質上電力
管理ノ事務ト分離スベカラザルモノアリ加フ
ルニ近ク施行セラルベキ電氣事業法中改正法
律（昭和十三年法）ニ於テ電氣ノ取締ヲ一層強化
セルニ伴ヒ當該行政部局ノ機能ヲ更ニ鞏固ナ

ラシムルノ必要アリ仍テ内閣ニ於テハ此ノ際
電氣ニ關スル行政ヲ掌理スベキ中央機關ニ相
當ノ變更ヲ加フル爲メ右ノ電力管理準備局ヲ
廢止シテ遞信省ノ外局タル電氣廳ヲ新設シ同
省電氣局ヲ之ニ併合スルノ議ヲ決シ爰ニ此ノ
趣旨ヲ主眼トスル本案三件ヲ本院ノ議ニ付セ
ラレタルモノナリ

今本案各件ノ要旨ヲ摘録スレバ左ノ如シ
第一 遞信省官制中改正ノ件

前述ノ如ク從前遞信省ノ内局タル電氣局ハ

之ヲ新設ニ係ル同省ノ外局タル電氣廳ニ併
合スベキニ由リ本件ヲ以テ逓信省官制ノ現
行規定ニ於ケル逓信大臣ノ所掌事項中發電
水力ニ關スル事務及電氣ニ關スル事業ノ監
督ノ事務ヲ削リ(第一條電氣局ニ關スル條項
ヲ削除シ(第五條及)同局ノ局長一人並ニ現ニ
同局ニ配置セル書記官、事務官、技師、屬及技手
各若干人ヲ減員ス(第二條、第七條、第八
條、第九條及第十條)

第二 電氣廳官制

本件ハ電氣廳ノ組織權限ヲ定ムルモノニシ

テ(一)電氣廳ハ逓信大臣ノ管理ニ屬シ電力管
理法ニ依ル電力ノ管理、電氣ニ關スル事業監
督、取締及檢定、發電水力並ニ日本發送電株式
會社ノ監督ニ關スル事務ヲ掌ルモノトシ(第
一條)(二)電氣廳ニ長官官房第一部及第二部ヲ置
クコトトシ其ノ分掌事項ヲ定メ(第二條)(三)同廳
ニ長官(勅)一人、部長(勅)二人、書記官、事務官及技
師(以上奏任但シ技師ヲ得)並ニ屬及技手(以上各
ヲ勅任ト爲スコトトシ)若干人ヲ置クコトトシ(第三條)此等ノ職員ノ職
務ヲ定メ(第五條、第十條)(四)電氣廳ノ事務ニ參與セ

シムル爲メ同廳ニ參與十五人以内ヲ置キ遞
信大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳勅任官及學識
經驗アル者ノ中ヨリ內閣ニ於テ之ヲ命ジ學
識經驗アル者ノ中ヨリ命ゼラレタル參與ハ
其ノ任期ヲ三年トシ特別ノ事由アルトキハ
任期中ト雖之ヲ解任スルコトヲ妨ゲザルモ
ノトシ參與ニシテ本官ヲ有スルモノハ本官
ノ受クル待遇ニ依リ其ノ他ノ參與ハ勅任官ノ
待遇ヲ受クルモノトシ(辨四)(五)電力管理準備
局官制ハ之ヲ廢止スルコトトス(新三項)

以上ノ二件ヲ以テスル行政機構ノ變更ニ伴ヒ
其ノ經費ニ付テハ昭和十四年度歲出豫算ニ於
テ之ヲ整理シタリ

第三 奏任文官特別任用令中改正ノ件

前記ノ電氣廳職員中同廳事務官及今般別案
ノ勅令ニ依リ遞信部内ニ設置セラルル中央
航空研究所ノ事務官(任兼)ハ其ノ職務ノ性質上
普通任用ノ資格ナキ者ヨリモ之ヲ任用スル
ノ必要アリ且類似ノ先例ニ徴シ之ガ爲メニ
特別任用ノ途ヲ設クルコト妥當ナルニ由リ

本件ヲ以テ奏任文官特別任用令列記ノ諸官
中ニ電氣廳事務官及中央航空研究所事務官
ヲ追加シ此ノ二官ハ同令所定ノ官歴アル者
ヨリ高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス
ルコトヲ得ルモノトスルナリ

按ズルニ電力ノ管理其ノ他電氣ニ關スル事務
ハ國家ノ行政ニ於テ重要ノ地位ヲ占ムルモノ
ナルコト言フ俟タズ其ノ關涉スル所廣汎複雑
ニシテ之ヲ圓滑ニ遂行スルハ必ズシモ容易ノ
業ニ非ザルベキガ故ニ其ノ銜ニ當ラシムル爲

ノ相當ノ規模及機能ヲ具ヘタル中央行政機關
ヲ設置スルノ要アルコトハ之ヲ認ムルニ難カ
ラズ從テ本案ノ遞信省官制中改正ノ件及電氣
廳官制ハ其ノ趣旨ニ於テ之ヲ妥當トスベク其
ノ條項ニ於テモ特ニ指摘スベキ廉ヲ認メズ奏
任文官特別任用令中改正ノ件ハ特殊ノ奏任文
官ニ付實際ノ必要上特別任用ノ制ヲ設ケント
スルモノニシテ亦之ヲ妥當トスベシ唯電氣ニ
關スル行政ノ重要且困難ナルニ考ヘ殊ニ電力
管理ノ事タルヤ全然新規ノ制ナルヲ思ヒ當局

ニ於テハ新行政機構ノ運用ニ最善ノ注意ヲ用
ヒ以テ所期ノ效果ヲ收ムルニ遺憾ナカラシム
トヲ念トスベキナリ乃チ審査委員會ニ於テハ
當局ノ努力ニ信賴シ本案三件ハ允テ原案ノ儘
之ヲ可決セラレ然ルベキ旨全會一致ヲ以テ議
決シタリ

右審査ノ結果ヲ報告ス

昭和十四年三月二十五日

審査委員長

樞密顧問官男爵鈴木貫太郎

審査委員

樞密顧問官

窪田静太郎

樞密顧問官

鈴木 莊六

樞密顧問官

石塚 英藏

樞密顧問官

清水 澄

樞密顧問官

南 弘

樞密顧問官

菅原 通敬

樞密院議長公爵近衛文麿殿

昭和十四年三月二十四日立案

書記官長 

主筆

書記官

書記官



國際勞働機關帝國事務所官制廢止ノ件
審査報告

(別紙ノ通り)